

## 基本計画素案に寄せられた市民意見

No.	意見	考え方
1	素案全体を通して、手段、方法、順序等が計画されておらず、計画としての体裁が整っていない。	現状は素案の段階で、施策の部分を書き込んでいません。今後施策を記載し、具体化をしていきます。
2	基本構想が具現化されていない。	
3	各章ごとに独立しており、全章の整合性がない。	第1章の社会経済環境の変化と横須賀の基礎的な課題で、計画策定において考慮すべき大きな課題を捉え、第2章では3章以下の施策を考えるにあたって共通する条件として人口、産業、土地利用について記述し、第3章では重点とする戦略、第4章では基本計画の中心となる全施策、最後に第5章でそれらの施策の推進姿勢を記述するという構造になっており、1章から5章まではそれぞれに役割があり、流れとして整合がとれていると考えています。
4	都市像「国際海の手文化都市」をうたっているが、第3章にも第4章にも「国際」に関してなにも示されていない。	第3章の重点プログラムでは、「にぎわいを生むプログラム」に、第4章では1の大柱「いきいきとした交流が広がるまち」の部分で捉えることになると思いますが、どこまで言及すべきかも含めて、具体的な施策の記述の際に検討します。
5	「はじめに」で「高い理想を掲げる」の表現について。足元も考えないで、高い理想を掲げる時ではないのではないかと。衰退をストップさせる施策を最優先させるべきである。	ご指摘のように「衰退をストップさせる」ことは喫緊の課題であり、鮮やかに実現できるかという点で「高い理想」です。財政状況の厳しい現状を考えると、この基本計画も現状維持の消極的な計画になる危惧がありますので、あえて困難な課題に取り組むという意欲を示したものです。最終的に、「はじめに」は全体を通しての考え方を示す部分として見直しを行いますので、その際に表現を検討いたします。
6	「はじめに」で「横須賀の自信と誇りを取り戻そう」の表現について。今後の横須賀を背負う若者には理解されないのではないかと。	審議会委員の若い世代に意見を聞いてみたいと思います。最終的に、「はじめに」は全体を通しての考え方を示す部分として見直しを行いますので、その際に表現を検討いたします。
7	「はじめに」で「元気な横須賀をめざします」の表現について。「市民の福祉の増進を図ります」が計画にふさわしい。	「市民の福祉の増進」は、自治体の基本的な使命です。基本計画としては喫緊の課題であるまちの活性化をわかりやすく「元気な横須賀をめざす」と表現しました。
8	第1章に関して、「社会経済環境の変化と横須賀の基礎的な課題」は、骨子案の時のように別々の表記の方が適切である。	骨子案では、社会全体の今後の流れと、今後を含めた横須賀市の課題を別々に記載しましたが、同じような内容が2か所に出る場合があり、わかりづらいため、1つにしました。
9	第1章に関して、「横須賀の基礎的な課題」の「基礎的な課題」は通常使われない熟語。「横須賀が抱える主要な課題」であればなんとか理解できる。	ご指摘のように変更することを検討します。
10	第1章に関して、「課題」は、「解決しなければならない問題」であり、1～7の項目の文末が、「進展」「対応」「高まり」「期待」「要請」「確立」になっているのは、「課題」にそぐわない。	1～7の項目は、それぞれの変化や事象に対して、どのように対応していくかが「課題」であり、2の厳しい財政状況への対応だけがそのような表現になっています。全体の表現の統一を検討します。

No.	意見	考え方
11	第1章に関して、「少子高齢化と人口減少社会の急速な進展」に関して、「進展」はネガティブな表現には使わない。後段の「人口減少社会の急速な進展」は「人口減少社会への急速な進展」が適切である。	表題は、客観的な事実として「少子高齢化と人口減少社会」の方向を捉える表現として、「進展」を使っています。後段のご指摘は、そのとおりと考えますが、「人口減少社会」の「社会」を削除することも含めて検討します。
12	第1章に関して、各項目に何も解決策が示されていない。	第1章は、社会全体の今後の流れと、今後を含めた横須賀市の課題を示す章であり、具体的な対応は第3章以降に示します。また、さらに詳しい事業レベルへの言及は実施計画の役割になります。
13	第1章に関して、「本市の厳しい財政状況は、最近の税収の伸び悩みが主因ではない。また、社会保障費の増大が財政を危機的な状況にしている」というのは責任回避である。	厳しい財政状況の要因は記述の2要因だけではありませんが、現状からみて、今後危惧される財政悪化の主要因として記述しています。
14	第1章に関して、厳しい財政への対応のうち、歳出抑制を「創意工夫や選択と集中による」としているが、何を意味しているのか。説明不足である。	第1章は、課題を記載する章で、具体的な対応は第3章以降になります。ちなみに、この内容に対しては、行財政改革の実施や、第3章で重点プログラムにより選択と集中の方向を示します。
15	第1章に関して、なんで「環境配慮への機運の高まり」が課題なのか。一般論にすぎない。	「環境配慮への機運の高まり」という市民の動向に対して、どのように行政として対応していくかを「課題」としています。
16	第1章に関して、「地域経済への期待」は、「地域経済活性化施策の確立」の方がタイトルにふさわしい。	解決策としての施策は、ご指摘のようになるかと考えますが、課題を捉える第1章としては、ご指摘を生かし「地域経済活性化への期待」とすることを検討します。
17	第1章に関して、「羽田空港再拡張」が横須賀の地域経済の活性化に影響を及ぼすと基本計画に書く内容か。	集客は、今回の基本計画の柱の一つですが、羽田空港の国際線化の拡大により、海外からの集客も視野にいれた施策が可能になると考えています。
18	第1章に関して、地産地消は賛成だが、どのような施策ですすめるというのか。旗を揚げても進まないのではないか。	施策は第3章以降に記載しますが、掲げた施策は、着実に推進する姿勢で臨みます。
19	第1章に関して、「安全・安心への要請」は、市民と行政どちらからの要請か。	市民からの要請です。
20	第1章に関して、「成熟型社会」とはどんな社会と定義しているか。	経済や都市の人口が、成長期から一定レベルに達し、低成長あるいはこれ以上増加しないなどの状況にある社会であり、「物の充足」から「心の充足」に軸足が置かれるようになった社会を「成熟型社会」と捉えています。別途、用語の解説等を検討します。
21	第1章に関して、「社会情勢の負の影響や地域の人材育成機能の低下が、フリーターやニートを増加させ、所得格差を拡大させている…」は、思考が短絡的で単純である。	ここでは、フリーターやニートの存在、所得格差の拡大という課題を捉えようとしています。その要因は単純ではないというご指摘について、要因の一つであるという表現を検討します。

No.	意見	考え方
22	第1章に関して、「国際理解教育、情報教育、力強い人材の育成」が具体的に理解できない。	第3章以降の具体的な施策の記述で、わかりやすい表現を検討します。
23	第1章に関して、「地域主権の確立」が問題ではなく、それに対応できる横須賀市の制度や考え方に関する準備がなされていないことが問題ではないか。	そのような認識で、課題として記載しています。
24	第2章に関して、「計画の条件」という熟語は希有である。強いていえば、「計画作成上の考慮要件」とか「計画策定上の考慮要件」とすべきではないか。	3章以降の施策の検討にあたって、どの程度の人口規模を想定するのか、経済の基盤である産業をどうするのか、ハード整備にあたって土地利用はどのようになるのかということは、まさに「計画の条件」であって、考慮すべきという表現はあたらなないと考えます。
25	第2章に関して、「1人口・世帯数」の見出しであるが、四角内の記述は人口のみである。	ご指摘のとおりで、世帯数の記載も検討します。
26	第2章に関して、「成長力の高い産業や雇用吸収力の高い産業を導入、育成します」と記載されているが、そんな夢のような産業があるならば具体的な記述をすべきである。	具体的な産業分野については、第3章以下で記載を検討します。
27	第2章に関して、第1次産業がどうして東京大都市圏の安定的な食糧供給の貴重な生産産業といえるのか。	キャベツの生産が全国7位(2006年度)であったり、沿岸漁業の水揚げが県内第1位という点もあります。東京大都市圏の食糧供給の一翼を担っていることは確かなことです。
28	第2章に関して、「土地利用」ではなく、「都市構造」を述べているのではないか。	(1)～(3)はご指摘のとおり都市構造の記述で、それらの構造を実現するために、「総合的で効率的な土地利用」を目指すとしています。
29	第2章に関して、「コンパクトな都市構造」ではなく、「拠点型ネットワーク都市構造」ではないのか。	「土地利用」の四角内の1段落目は、人口減少・少子高齢化に伴って、都市構造自体を集約化していくことを言っており、「コンパクトな都市構造」です。そのうえで、2段落目では、ご指摘の「拠点ネットワーク型都市構造」の必要性を述べています。
30	第3章に関して、「重点」とは何に対しての「重点」か。	4章以降のすべての施策に対して、重点的に進める施策を示しています。
31	第3章に関して、「プログラム」とは何か。	一般的には、メニュー表、番組表、次第といった意味ですが、行政計画では、プロジェクトを導き出す一つ上の概念として「プログラム」を使用しています。
32	第3章に関して、「1重点プログラムの前提条件」は、「重点プログラム検討(あるいは作成か策定か)上の前提条件」との意味か。	ご指摘のとおりで、表記を再検討します。

No.	意見	考え方
33	第3章に関して、「7つの都市力を備える都市」＝「国際海の手文化都市」なのか。	「7つの都市力を十分に備えた都市」は、持続可能な都市の普遍的な姿です。本市の場合、国際性や自然などの本市の資源を活用してこの都市力を備えた姿が、国際海の手文化都市と考えています。
34	第3章に関して、「基本計画では、…横須賀市が持続可能な発展を遂げる都市の土台づくりをする」としているが、都市像に近づけるための計画づくりではないのか。	同じ段落で、『基本計画では、基本構想が掲げる都市像「国際海の手文化都市」の実現を目指すとともに、…』と記述し、都市像の実現を視野に入れながら、現状からみてまずは足元の土台づくりをしております。
35	第3章に関して、7つの都市力の下に書いてある3～5項目は「具備すべき要件」なのか。語尾が次元の異なる言葉が並んでいる。	ご指摘のとおり、それぞれの都市力の内容を具体化したものです。例示ではありますが、語尾の整理は検討します。
36	第3章に関して、「横須賀が取り組むべき課題」は、重複や不適切な用語がある。この列挙項目は「課題」ではなく「施策」ではないのか。	7つのと都市力を充実させるために、課題が重複します。それを政策分野にグルーピングしたものが重点プログラムです。したがって、この列挙項目は「課題」であり、重点プログラムがそのための「施策」の方向です。
37	第3章に関して、「根底にある基本的な戦略」は、「…必要があります。」は戦略の表記ではない。	今回の計画全体にかかる重要な考え方ですが、掲載位置も含めて検討します。
38	第4章に関して、基本構想に記述されている内容をかみ砕いて述べているだけである。	基本計画の役割は、まさに基本構想をかみ砕くことであり、今後2次素案で具体的な施策をお示しします。
39	第5章に関して、「推進姿勢」の言葉がなじまない。「横須賀市行政運営全般にかかる考慮要件」のような表現の方がなじむ。	計画を着実に進めていくという姿勢から、「推進姿勢」がふさわしいと考えます。
40	第5章に関して、「推進姿勢」は第1章に記述するのがいいのではないのか。	基本構想と整合させています。具体的な施策を示したうえで、推進姿勢を示すという現行の順番がよいと考えます。